

# 大分の史跡－亀塚古墳－

かめづかこふん にゅう  
亀塚古墳は、丹生川の河口近くにある、5世紀初めに造られた全長100mを超す県下最大級の前方後円墳です。平成8年に国の史跡に指定されました。

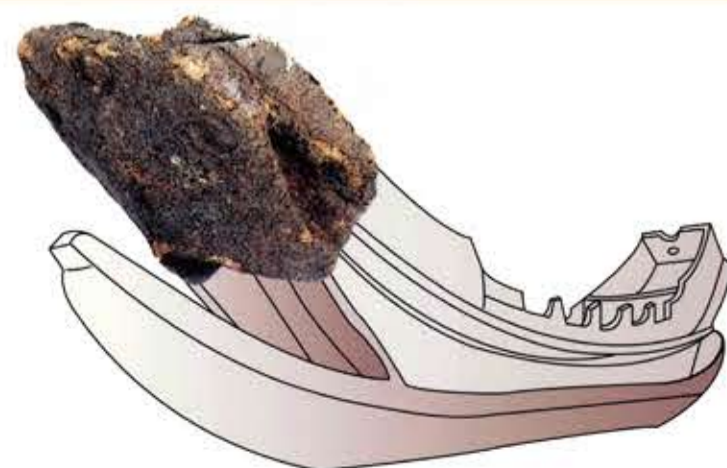
## 復元された県下最大級の前方後円墳



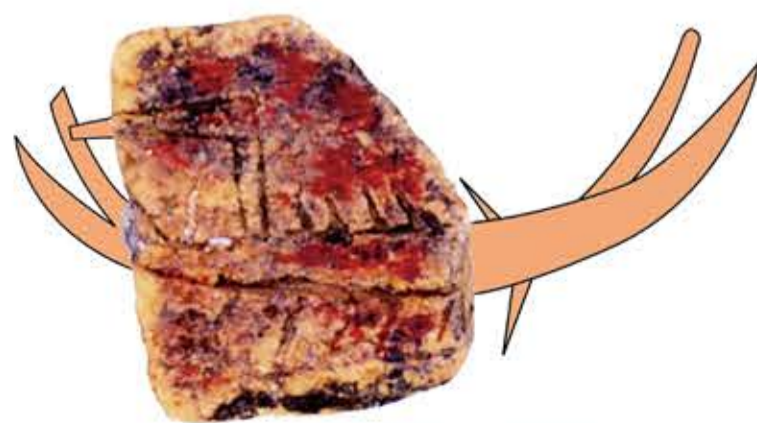
現在の亀塚古墳

## 海で栄える海部を象徴

海部の王が眠っていた古墳の頂上からは、かつて船が行き交ったであろう豊後水道から四国まで見渡せます。出土した埴輪には、船形をはじめ、船や貴重な貝など、海と関わる文様が刻まれたものもありました。海の仕事をなりわいに行っていた海部の人々は、当時、高い航海術を必要としていたヤマト王権の中で大きな役割を担って繁栄したと考えられています。



船形埴輪



船形線刻文様埴輪

平成5年から同10年にかけて、古墳の保存整備が行われ、その調査により古墳の規模や構造などがより明らかになりました。3段構造で造られた墳丘は、石英質の白石で葺かれ、赤い円筒形埴輪がおごそかに立ち並んでいました。葺き石の積み方から、多数の異なる集団が、組織的に作業していたことも分かりました。推計によると、当時、この古墳を造るためには、167,000人ものが2年半、働かなければならなかったと考えられています。

丘の上に威容を誇る巨大な古墳からは、豊かな財力と強い組織力をもっていた海部の王の繁栄ぶりをしのぶことができます。



後円部の頂上に置かれた石棺



亀塚古墳周辺地図